Ⅲ

研修部・専門委員会の
あゆみ

研究協力校（公開研究発表校）

対話力を高め，主体的に学ぶ子どもの育成

西根小学校

Ⅰ　学校研究について

1　研究の概要

昨年度より「対話力を高め，主体的に学ぶ子どもの育成」を研究主題として学校研究に取り組んできた。成果とともに以下のような課題が確認された。

カリ・マネ指導案を作成し，見通しをもって学習を進めたことにより，意識的に教科等横断的な学習をすることができ，効果的な学びにつなげることができた。さらに，タブレットPC端末を活用したことにより，進んで学ぶ姿勢が出てきた。しかし，まだ教師主導の場面が多く，子ども自ら「よりよい学び」を考えたり，実感したりするには至っていない。

また，交流の形態（ペア・グループ・全体で）を工夫したり，相手意識をもたせたりして，対話が必要となる場面を設定することで，活発な話合いができ，課題に迫ることができた。また，個性化・個別化の選択できる課題解決の場の設定は，子どもたちの対話力を高めることができることが分かった。しかし，まだ一方的に自分の思いを発しているだけの場面もあるため，相手の思いを受け止めたり，自分の考えと比較したりしながら聞くことができる「よい聞き手」を育てていく必要もある。

2　めざす子どもの姿

「多様な対話や表現を通して，自分の考えを広げたり深めたりする子ども」

本校で考える多様な対話とは……
- ・情報（資料）との対話
- ・思いを伝えるための相手との対話
- ・得た情報に反応する自己との対話

深い学びを支えるために
言語能力・情報活用能力等
様々な技術が必要となる。
→ 対話力

付けたい資質・能力		低学年	中学年	高学年	特別支援
知識及び技能	これまでの学びを生かして，課題を解決することができる。	分かることや分からないことを明らかにしながら，課題解決に向かおうとすることができる。	課題解決に向けて見通しをもち，様々な方法を用いて取り組むことができる。	課題解決に向けて見通しをもち，試行錯誤を重ねながら粘り強く取り組むことができる。	物事を正しく理解し，できるようになったことを用いて取り組むことができる。
思考力，判断力，表現力等	対話を通して学びを広げ，深め，表現することができる。	順序立てて考え，根拠をもって判断したり，自分の考えを伝えたりすることができる。	筋道を立てて考え，根拠をもとに判断したり，自分の考えをまとめて伝えたりすることができる。	筋道を立てながら，多様な考えを理解し，自分の考えを広げたり分かりやすく伝えたりすることができる。	自分の考えや思いをはっきり伝えることができる。
学びに向かう力，人間性等	自ら課題を見いだして，学び方を考えることができる。	学習への興味関心をもち，進んで学ぼうとし，学んだことのよさや楽しさを実感することができる。	見通しをもって問題解決に取り組み，学んだこととつなげながら自分の成長を振り返ることができる。	自己の学びの価値を振り返ったり，次の学びにつなげたりしながら，主体的に学ぼうとすることができる。	学習への興味・関心をもち，進んで学ぼうとし，自分の成長を振り返ることができる。

3　研究の視点

【視点１】子どもが主体的に学ぶための工夫
- ・教科横断的な視点で編成したカリキュラムマップの作成
- ・子どもと共に行う単元構成や課題作り
- ・深い学びにつなぐ学習スキルの活用
- ・学びの成長の確認（メタ認知能力の育成）
- ・学びの連続性

【視点２】子どもが対話力を高める工夫
- ・対話が必要となる場面づくり
- ・対話する対象を知る，選ぶ（課題やねらいに沿って），（そのよさを基に）
- ・対話に必要なスキルを身に付けさせる
- ・教師のコーディネート
- ・協働的な学びと個人での追究の場づくり
- ・よい聞き手の育成

Ⅱ　実践例（公開研究会の授業から）【成果○と課題●】

1　第１学年算数科「にているかたちをみつけよう～かたちあそび」

○タブレット PC 端末を活用することで見やすく整理できた。子どもたちも一気に見比べられてよかった。ICT の効果的な活用により，形の特徴をうまく比較・検討することができた。

●子どもたちの考えをもっと聞くために「どうしてそう考えたのか」という根拠を述べて，さらにそこにつなげていくとよかった。

2　第２学年生活科「作ってためそう　うごくおもちゃけんきゅうじょ～つくる楽しさ発見～」

○たくさんの材料を用意し，自由に選び取ることができるようにしたので，子どもたちは試行錯誤をしながらおもちゃを作ることができていた。

●おもちゃ作りや遊びを楽しむという目標は達成できていたが，他のグループと教え合ったり，交流したりする姿が少なかった。

3　第３学年国語科「友達の考えを認め合い，おすすめの本を決めよう～はんで意見をまとめよう～」

○班の中で困っていると周りの子がアドバイスをして話し合うことができていた。

●理由の大事さを分かっているからこそ，理由が条件に合っているかの吟味が必要だった。

4　第４学年理科「あたためたり冷やしたりするとどう変わる？～物の体積と温度～」

○児童が疑問に思ったことを生かして実験を組むことで，自ら課題意識を強くもち，実験に臨むことができていた。

●子どもは自分たちで考えた実験にこだわる傾向があるので，他の班の実験方法や考えを共有するなら，最後のまとめだけでなく，実験中にも交流して相互理解するとより効果的だった。

5　第５学年体育科「ひろって　つないで　目指せ３段攻撃～ソフトバレーボール～」

○作戦ボードが１チームに１台ずつあり，コート図と人のマグネットで作戦の動きが視覚的に分かった。

●練習の方法として，ゲームの動画を撮って振り返る方法もできたかもしれない。

6　第６学年社会科「江戸幕府が長く続いた秘密を探ろう～江戸幕府と政治の安定～」

○タブレットの活用に慣れ，何ページも蓄積された資料を使いこなすことができていた。

● PC をとても使いこなしている反面，子ども同士や指導者との目を合わせた学習の場面が少なくなってしまった。ノートへまとめ，書く力を付けることも大切にしたい。

7　のびのび学級　自立活動「友達となかよく遊ぼう～のびのびすごろくを作って遊ぼう～」

○子どもの思いをくみ取って教師が言葉を返していくことで，子どもの表現が広がった。

●聞く・見る・話す・待つなど，作業の交通整理をする時間を取ってあげるとよかった。

Ⅲ　今年度を振り返って

今年度は，各担任が児童に付けたい資質・能力に重点をおいて，前期と後期の２回，カリ・マネ指導案を作成した。それにより前期の評価を生かして後期の授業を改善することができた。

また，児童も指導者もタブレット PC 端末の使用に慣れ，資料との対話，グループでの対話，自己との対話など，様々な場面で効果的に活用できるようになった。それに伴い，直接話合いや発表をしたり，ノートやプリントに記入したりする機会が減ってしまったことも否めない。「話す力」「聞く力」「書く力」を付けることも大事に扱う必要があるのではないかとのご指摘をいただいたので，学習のめあてやタブレット PC 端末の使用目的をより明確にし，単元の中で計画的にバランスをとって指導していくことを心がけていきたい。　（黒田　恵）

研究協力校（公開研究発表校）

たくましく学ぶ子どもの育成

～主体的に学び，共に学び合い，その学びを実感できる授業づくり～

寒河江中部小学校

Ⅰ　研究の方針

〇自分事として探究していく学びづくり

子どもと教師で「たくましく学ぶ子ども」の姿について語り合い，学級の授業像を描く。この授業像を，教室に掲示することで，「たくましい学び」の具体的な姿を子どもと共有し，子どもと教師で授業を創っていくという意識を高めるものとして活用していく。

〇めざす子どもの姿を明確にした授業づくり

学校教育目標の具現化をめざした学年カリキュラム・マネジメント表を作成し，学年として目指す子どもの姿を明らかにする。重点教科において，それにせまるための手立てを系統立てて明記することにより，新学習指導要領がめざす資質・能力と本校の課題に沿ってめざす資質・能力の達成をねらった授業づくりをする。また，ＰＤＣＡサイクルを意識し，日々の実践により，どのような力が付いたのかを検証しながら授業改善につなげていく。

Ⅱ　研究の視点

【視点１】主体的に学ぶ工夫

子どもたちが，自分事として学習に主体的に向き合っていくために重要となる単元構成や課題設定，学習の見通しがもてる手立てを工夫する。そして，必要感や必然性を感じて学習に取り組むことで，自分の考えや思いをもち，学び合いにつなげていけるようにする。

【視点２】かかわりを通して学び合う工夫

子どもたち一人一人の学びに，交流を通して広がりや深まりが生まれるような手立てや支援を工夫する。そして，ここでの協働的で深い学びにより，最終的に実感させたい学びである「授業軸」につなげていけるようにする。

【視点３】自分の学びを実感する工夫

授業や単元全体の中で，学びを見つめるための手立てを工夫し，自分の学びを実感させる。「何を学んだかがわかるまとめ」，「つながる学びとしての意識を深める振り返り」を大切にする。「つながる学び」とは，「課題が生まれる学び」，「社会生活に結び付く学び」，「他者とのかかわりにより自分の変化に気付く学び」と考える。

Ⅲ　実践例（公開研究発表会の授業から）（〇成果，●課題）

１　＜特別の教科　道徳３年　こまっている人がいたら「みんながくらしやすい町」＞

町の中にいる親切な人が描かれた絵を通して，相手の状況に配慮して，親切な行為を自ら進んで行うことについて考えを深めた。自分たちが暮らす寒河江市についても考えを広げ，実生活につなげて考えていき，学びを実感できるように工夫した。

〇１，２年生は自分よがりの親切で良いが，３年生は相手のことを考えた親切ができることが大切であり，発達段階を押さえた指導になっていた。

○教科書の資料だけにとどまるのではなく，自分たちが住んでいる寒河江市に目を向けて考えを広げたことが，道徳的実践意欲と態度を養うことにつながった。

●家庭学習などで保護者と一緒に「寒河江市の暮らしやすいところ」「暮らしにくいところ」を調べてくる。それを共有することで，問題意識と必要感をもって学習できたのではないか。

2　＜国語科５年　伝記を読み，自分の生き方について考えよう
「やなせたかし―アンパンマンの勇気」＞

自分の生き方と関わらせながら伝記を読み進め，主体的に読むことができるよう構成を工夫した。交流の場面では，交流方法を自己選択できるようにし，主体的に活動に取り組むことができるようにした。

○なりたい自分を中心に置いて伝記を読み取っていくことで，一人一人の学びを大切にした授業になっていた。

○学習方法を自己選択・自己決定できるようになっていることが良かった。子どもたちが意欲的に交流したり，一人で学びを進めたりすることができていた。

●ＩＣＴを活用することで，だれがどのような人物を選んでいるのか，どのような視点で伝記を読んでいるのか「中途の共有」を行うことで，交流したい相手を自分で見つけることが容易になり，より主体的に交流することができるのではないか。

3　＜国語科４年　登場人物の変化を中心に読み，物語を紹介しよう「プラタナスの木」＞

登場人物の変化のきっかけについて，場面の状況と登場人物の行動や会話を関連付けて読み，叙述をもとに自分の考えをまとめ，交流をした。付箋を用いて互いの考えを関連付けていきながら交流をすることで，共感したり納得したりして，聞き比べる意識をもてるよう工夫した。

○言葉に着目した探究活動が展開されていた。魅力を紹介する活動では，子どもそれぞれの学びが生かされた文章が期待できる。

○児童が目的や条件に応じた説明をする場を設け，自他の考えの共有ができていた。自分の考えが，授業や単元でどのように変化していったのか振り返りの場面で継続して記入してきたことで，自分の学びを確かなものにしている。

●叙述に基づいて気持ちを考える問いに答えることができるよう，叙述を丁寧に扱って，授業を進めていき，読む力を付けていきたい。

Ⅲ　成果と課題

○カリキュラム・マネジメント表の作成により，付けたい力を明確にした学年カリキュラムや授業づくりをすることができた。

○学年毎の目指す子ども像にせまる育ちが見られた。

○自分から学ぼうとする子どもたちの姿，友達同士フォローし合う姿が増えてきた。

●自己選択，自己決定できる場を授業に積極的に取り入れ，子どもが主体的に学ぶことができるように支援する。

●振り返り（アウトプット）を意識し，自分達の成長に気付くことができるように促す。

（井上　崇）

研究協力校（公開研究発表校）

主体的に学び，かかわりの中で学びを深める子どもの育成
～考え，決め，伝える活動を通して～

高松小学校

Ⅰ　学校研究について

1　研究の概要

今年度は，昨年度から継続して同じ研究主題とし，今年度，本校が育成をめざす資質・能力の一つである「考え，決め，伝える力」を授業改善の柱として研究を進めた。研究でめざす子どもの姿を「主体的に学ぶ子ども」と「学びを深める子ども」とした。「主体的に学ぶ子ども」を，自分なりに解決方法を考え，見通しをもちながら試行錯誤する子ども，わかる・できるようになるためにノートにある学びの足跡に立ち返ったり，教科書を見たり，友達に聞きに行ったりと自ら動く子どもと捉え，「学びを深める子ども」を，互いに考えを交流することにより，自分の考えを見直したり，学んだことをこれまでの経験と結び付けたりする子ども，学びを振り返り自己の変容に気づくことができる子どもと考えた。

2　研究でめざす子ども像と研究の内容

（1）「主体的に学ぶ子ども」に迫る手立て
　①課題設定の工夫
　②問い返し発問の工夫
　③自己決定と自己調整の場の設定

（2）「学びを深める子ども」に迫る手立て
　①考えたことの図式化と，書くことによる説明
　②理由や根拠をもとにした話し合い
　③振り返りの時間の設定

＜汎用的な力の向上のために＞
　①話す・聞く力の向上　・・・　今年度の重点
　②コミュニケーション力の向上
　③ＩＣＴ活用スキルの向上

Ⅱ　実践例（公開研究発表会の授業から）【成果○と課題●】

1　第１学年算数科　「ひきざん」

○　ペア学習で，自分から友達に声をかけて考えを説明したり，間違えた時に教え合ったりすることができた。

○　前時までの学習でひき算の計算方法が定着していて，子どもたちはそのやり方を説明できていた。

●　方法を説明するのか，理由を説明するのかを明確にして授業を仕組んでいくことが大切である。

2　第３学年算数科　「重さをはかって表そう」

○　オクリンクで事前にカードを作っておくことで，子どもたちの考えを分かりやすく表すことができた。
○　授業で使う教材を子どもたちと準備したことで，自発的に活動させることができた。
●　個で学ぶ時間が多く，対話的な学びが少なかった。友達とかかわる場面を教師が意図的につくることが大切である。

3　第６学年算数科　「比例と反比例」

○　既習とつなげ，子どもの言葉で課題を作り上げていた。
○　友達の考えにつなげて矢印や記号，数字を書き込みながら説明することができていた。また，各自の考えを比較しながら比例の意味について考えるなど，深まりが見られた。
●　教科書を見る，友達と相談するなど，学び方を自由に選択させ，自力解決ができるように継続していきたい。

4　３組（情緒学級）算数科　３年「分数」・５年「四角形と三角形の面積」

○　授業者の問い返しが効果的で，算数用語を用いながら，自分なりの表現で説明する力が付いていた。
○　上学年の子が「お助け隊」として活躍し，下学年の子に教える場面があり，自然な交流ができていた。
●　学びを日常の生活場面でも生かせるように，生活への一般化を図っていくよう工夫していきたい。

Ⅲ　今年度を振り返って【成果○と課題●】

○　考え，決め，伝える力を意識して実践を重ねることにより，主体的に学ぶ児童と学びを深める児童に迫る授業改善を進めることができた。
○　「話す・聞くレベル表」を作り，児童と教師でイメージを共有しながら学校全体で取り組むことにより，話す・聞く力が高まった。
○　児童の疑問や困り感をもとに課題を設定したり，問い返し発問によって自分なりの見通しを持たせたりするなど，児童の思考に即して授業を進めている場面がたくさん見られた。
●　研究がめざす子どもの姿や研究の内容などを教師と児童が共有し，日常的に実践すれば，更に研究主題に迫ることができたのではないか。
●　ＩＣＴ機器を意識的に使用することによって，児童の活用力を高めることができた。今後，目的に応じた活用方法や効果的な活用方法を研究し，よりよい授業づくりにつなげていきたい。

（佐藤　正和）

研究協力校（初年度研究校）

自ら学びを創る子どもの育成

三泉小学校

Ⅰ　主題設定の理由

本校では，一昨年より「主体的・対話的で深い学びの実現」を研究主題として授業実践を重ねてきた結果，成果とともに次のような課題が出された。①真面目に学習に取り組む反面，受け身で指示待ちの児童が多く，主体性に課題が見られる。②自分で問いを見つけてその解決方法を考えたり，友達の考えにつなげて自分の考えを相手が納得するように話したりするなどの思考力，表現力にも課題が見られる。そこで，これらの児童の実態から，「表現力」「思考力」「主体性」を育むことを目指し，「自ら学びを創る子どもの育成」を主題とし，研究を進めることとした。

Ⅱ　研究の内容

1　研究の視点（めざす子ども像）＊学校の教育目標と関連させる

【視点１】表現力（やさしい子）
【視点２】思考力（かしこい子）
【視点３】主体性（たくましい子）

低・中・高学年で目指す具体的な子どもの姿を設定した。

2　手立ての積み重ねによる全体構想図の作成

研究の視点に沿って，本校児童につけたい力（表現力・思考力・主体性）を意識して授業実践を積み重ねる。授業の中で，それらの力がついた児童の姿や有効だった手立てを追記していき，全体構想図を練り上げていく。

3　全校体制で取り組む学級づくりや授業づくり

本校では，早稲田大学教授田中博之氏が提唱した「総合学級力」を指標とした附属新潟式学級力に８年間取り組んできた。今年度は，これまで取り組み培ってきたことを基に，本校児童の実態に合わせ，目指す子どもの姿を視点として児童と目指す姿を共有し，振り返ることとした。

Ⅲ　成果と課題

○視点１に関しては，相手意識を持たせることで，その相手が分かるよう表現する姿が見られた。また，自分の考えを言葉だけでなく，図や式を使って説明することも有効であった。

○●視点２に関しては，具体的に操作できる教材や，既習事項の掲示があることで，児童の思考を促すことができた。より促すためには，思考することを絞ったり，ねらいに合わせて話し合いの形態や交流相手を変えたり，思考の過程を書いたりすることが有効ではないかと話し合われた。

○視点３に関しては，児童から課題を引き出すようにしたことで，意欲的に取り組む姿が見られた。他教科との合科的な学習も有効であった。また，学習の流れの見通しを持たせたり，学習リーダーを設定したりすることで，指導者に頼らず自分たちで学習を進めようとする姿が見られた。

●タブレットＰＣ端末やバイシンクボードなど，児童がＩＣＴ機器を活用する機会が増えたので，表現方法の一つとして選択できるようにしたい。また，デジタルとアナログのよさを生かせるようにしたい。

（奥山　真由美）

研究協力校（初年度研究校）

生き生きと学び合う子どもの育成

～自らの課題に向き合い，対話を通してつながり，高め合う授業づくり～

南部小学校

Ⅰ　主題設定の理由

本校では，「生き生きと学び合う子どもの育成」を研究主題として授業実践を重ねてきた。その成果として，授業像を意識しながら学習に取り組んだり，互いに認め合いみんなで分かろうとしたりとする姿が見られるようになった。一方で，課題に対しての意欲を継続できなかったり，学びを実感して次の学習意欲につなげることができなかったりという実態もあった。

そこで今年度は，子どもたちが意欲的に学習に取り組み，自分事としての学びをもつ喜びを知り，「勉強が楽しい」という実感を持てるように工夫していくことを重点とした。

Ⅱ　研究の視点

【視点１】主体的に学ぶ意欲をもつための工夫【課題設定】　前に踏み出す力

子どもたちが教材と出会ったときに沸々とこみあげる，「なぜ」「不思議」「すごい」「おもしろそう」という疑問や感動や憧れなどの思いが「主体的に学ぶ意欲」のエネルギーになると考え，単元計画の工夫と課題との出会いを大切にしていく。

低位の子どもを含むすべての子どもたちについて，今自分がすべきことが分かり，課題に向き合い意欲を持続させるようにする。そのために，子どもの理解の程度を把握するとともに，発問や課題の提示の仕方，指示の出し方を吟味していく。１時間に１回，全員挙手できる問いかけをするなど，すべての子どもたちが自尊感情をもてるような工夫をしていく。

【視点２】精一杯考え追究するための工夫【情報収集】【整理・分析】　チーム力　考え抜く力

主体的に学ぶ意欲をもつことが，「精一杯考える」姿につながる。情報収集，整理・分析をしながら学び合い，「精一杯考える」学習になるための手立てを工夫していく。考える時間を明確にし，普段から考えさせていくことで，最後まで諦めずに取り組む力を身に付けられるようにしていく。

【視点３】学びを実感できるための工夫【まとめ・表現】　学びを実感する力

子どもたちに学びの達成感をもたせ，次への意欲につなげていくために工夫する。学んで分かったことやできたこと，どのようにして学んだかの足跡を自分なりの表現でまとめられるようにして見取る。また，教科同士のつながりを意識できるようにしていく。

※視点１～３はどの授業のどの場面でも意識していく。

Ⅲ　成果と課題

○活動の見通しや目的・相手意識を明確にすることで，意欲が高まり，主体的に学習に取り組むことができた。

○「なぜだろう」と問いを持てるような課題や簡単すぎない課題を設定したりすることで，意欲を持って取り組めた。

○単元の目標や，学級の授業像に関しての視点で継続的に振り返ることで，子どもたちが自身の変容に気付くことができた。

●勉強を楽しいと感じていない子どももまだ多く，意欲を高める授業づくりの継続が必要である。

●調べ学習や話し合いで時間が増え，自分の言葉で振り返る時間が設けられないこともあった。

（高橋　幸奈）

研究協力校（初年度研究校）

関わりを大事にし，学び続ける子どもの育成

醍醐小学校

Ⅰ　主題設定の理由

本校で付けたい資質・能力「自分の考えを論理的に表現できる力」の「話すこと」に焦点化し，授業実践を積み重ねてきた昨年度，以下のような成果と課題が明らかになった。

成果として，自分の考えを友達に進んで話したり，分からない時は素直に友達に聞いたりして，友達と関わりながら課題解決する姿や，自分の考えと友達の考えを比較しながら，学びを広げる姿が見られるようになった。

課題として，協働学習で自分の考えを発表するに留まり，友達の考えを聞き，その考えとつなげて話したり，さらに引き出すために質問したり，関連付けてまとめたりするなど，深い学びを実現するまでには至っていないことや，子どもたちに聞く力が十分に養われていないことが見えてきた。また，身に付けた表現力が，他教科や児童会活動などの生活場面で十分に発揮されていないことも課題としてあげられた。

そこで，今年度は，「話すこと」に加えて「聞くこと」にも焦点を当てて，学校研究を推進し，子どもが主体となり対話を通してつながっていく学びの中で，深い学びの実現を目指していきたい。また，各教科で身に付けた表現力を他の教科や生活場面でも活用していく場を設けていくことで，付けたい資質・能力を育成し，学校教育目標の具現化を図っていきたい。

Ⅱ　子どもに付けたい資質・能力

・自分の考えを論理的に表現できる力
・関わりの中で自分の考えを再構築し，学びを広げていく力

Ⅲ　資質・能力にせまるための主な手立て

・みんなで挑戦したくなる課題設定の工夫
・対話を通してつながっていく学びの場の工夫
・自他のよさに気付き，今後の学びにつながる振り返りの工夫

Ⅳ　成果と課題

○教師の「出」と「待ち」を意識した授業づくりを行ってきたことで，学習リーダーを中心に，自分たちで課題を作ったり学習を進めたり，主体的に学習に取り組む姿が見られた。
○書いた図を指さす，指でなぞるなどして説明したり，相手の反応を確かめながら短く区切って説明したりと，相手を意識して話す力が付いてきている。
○タブレットＰＣ端末などのＩＣＴを活用したり，自由交流でお互いの考えを聞き合う時間を確保したりすることで，進んで友達と関わり，友達の話を受容的に聞いたり，自分の考えと比べながら聞いたりして，学びを広げている姿が見られるようになった。
●個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を推し進めていく必要がある。子ども同士の関わりを大事にした学び合いを土台にしつつ，一人一人が「自分でどう学びを進めるか」を考えられるような授業を仕組み，主体性と自己調整力を育んでいく。
●確実な知識・技能の定着を目指し，授業の終わりには，個に返し適応題を解く時間を設定したり，振り返りの時間を確保したりし，学びを自分のものにしていく。

（佐久間　陽子）

1　陵東中学校区部会

自ら考え行動する子どもの育成

Ⅰ　はじめに

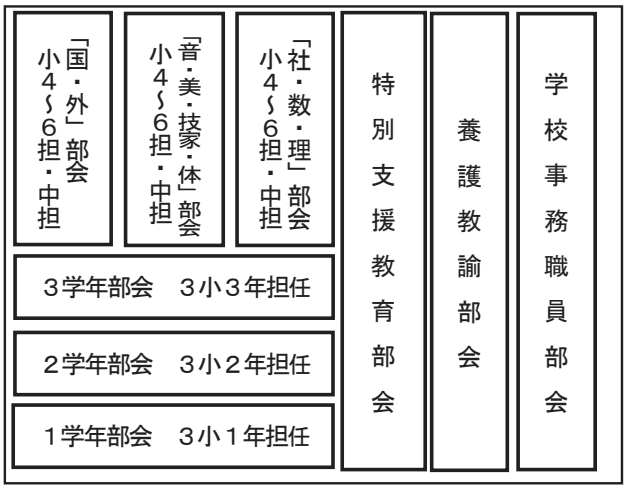
中学卒業時までに期待する「自立」「自律」の精神をもつ生徒像に校種を超えて目指していく。そこで，小中が連携して研修テーマを設定し，教科の特性や目指す児童・生徒の特性を踏まえながら実践を積み重ね，成果と課題を共有できる研修に努めた。

Ⅱ　研修の進め方

○小学４年から小中連携を強く意識するとともに，教科の特性を踏まえながらテーマに迫る研修を推進するため，右図のとおりの組織とする。

○小学３年までは，３小学校が課題を共有し，同一歩調で陵東学区の子どもを育てる起点とする。

○特別支援教育部会については，担当職員だけでなく，研修ニーズに応じて広く所属を認める。



Ⅲ　研修の概要

1　研修部会組織

	氏　　名	備　　考
会　長	横山　和弘　（陵東中）	陵東中学校長
副会長	原田　浩治　（西根小）	研究協力校の校長
子どもを語る会	白林　和夫　（寒河江小）	前年度研究協力校の校長
事務局	佐藤　匡一　（三泉小）	次年度研究協力校の校長

部　会	部　会　長	司　　会	記　　録
１学年部会	長岡　政彦（三泉小）	逸見　宗史（三泉小）	和泉　景子（寒河江小）
２学年部会	鈴木　雅寿（寒河江小）	奥津　美加（寒河江小）	熊坂　晴美（西根小）
３学年部会	柏屋　博之（西根小）	渡邊　　幸（西根小）	原田　太一（西根小）
国・外国語部会	渡邊　　基（陵東中）	菅井　耕一（陵東中）	伊藤　　楓（陵東中）
音・美・技家・体部会	横山　和弘（陵東中）	芳賀　彰洋（陵東中）	布川　怜菜（西根小）
社・数・理部会	佐藤　匡一（三泉小）	駒林　雅幸（三泉小）	真木　敬哲（陵東中）
特別支援教育部会	白林　和夫（寒河江小）	渡辺由美子（寒河江小）	菊地めぐみ（寒河江小）
養護教諭部会	原田　浩治（西根小）	水戸部和江（陵東中）	永田　真樹（寒河江小）
学校事務職員部会	原田　浩治（西根小）	大泉　民子（寒河江小）	菖蒲　良子（西根小）

2　研修内容

（1）第１回研修部会

日　時　令和４年　５月　９日（月）　　１５：１５～

場　所　１学年部会…三泉小学校　　音，美，技家，体部会…陵東中学校
　　２学年部会…寒河江小学校　　社，数，理部会…三泉小学校
　　３学年部会…西根小学校　　特別支援教育部会…寒河江小学校
　　国，外国語部会…陵東中学校　　養護教諭部会…西根小学校

内　容　◇陵東学区の児童・生徒の現状と課題の共有　（陵東中学校）
　　◇組織・計画，研修全体テーマの説明　　（部会長）
　　◇各校の学力に関する取り組みと成果・課題
　　◇部会の研修テーマまたは視点の設定

研修部会	共通視点・テーマ
第１学年	話をよく聴き，自分や友だちと比べたり，つなげて考えたりする子ども ～情報を共有していこう～
第２学年	伝える力，探究心の土台づくり ～自分の思いや考えを　自信をもって表現し合う～
第３学年	相手意識をもって考えを伝え合う力をつけるために
国・外	表現・読解スキルの育成　読む・聞く・書く・話す技能の育成
音・美・技家・体	情報を活かした実践力を高める工夫
社・数・理	根拠を明らかにして説明する力の育成
特別支援教育	個に応じた手立ての工夫
養護教諭	小中連携における９年間の主体的な生活習慣づくり ～メディアコントロールを中心にして～
学校事務職員	現在の学校における諸課題から，学習環境整備を考える
学校栄養職員	９カ年を通した食に関する指導計画の実践と改善

（2）第２回研修部会

日　時　令和４年　６月２９日（水）　　１５：３０～

場　所　第１回研修部会と同じ

内　容　◇部会ごとの視点・テーマにかかわる児童生徒の状況の共有
　　◇課題解決に向けた具体的手立ての構想と意見交流

（3）第３回研修部会

日　時　令和４年１１月２９日（火）　　１５：３０～

場　所　第１回研修部会と同じ

内　容　◇部会ごとの視点・テーマに沿った実践交流
　　◇今年度の成果と課題について

3　各部会の取り組み（□テーマ，○成果，●課題，→改善策）

【1学年部会】 話をよく聴き，自分や友達と比べたり，つなげて考えたりする子ども

○学習ことばを黒板わきに掲示することで，できたときにすぐ価値づけることができた。

○前時との比較，復習を板書してから，今日の問題に入り，前時と比べてどうだったかを考えさせることで，子どもの思いに沿っためあてを立てることができた。

○「今日はどんなことができるようになりたい？」などと問いかけることで子どもたちと一緒にめあてを考えることができた。

●ふりかえりは，顔のマークでふり返りをさせることで，「できなかった」でなく，次時への意欲につながるようにしたい。

【2学年部会】

伝える力，探究心の土台づくり～自分の思いや考えを自信をもって表現し合う～

○自分が調べたいテーマを決めて学習をすることで，探究心が向上し，個の課題の追究につながった。また，学習ツールの一つとしてタブレットＰＣ端末を選ぶことが多くなった。

○相手意識をもたせることで，より伝わるように書きたいという思いを強くもつことができた。

●深める話し合いにステップアップするために，相手が納得できる理由をつけて意見を述べるなどの議論をする機会を設けていく。

【3学年部会】 相手意識をもって考えを伝え合う力をつけるために

○話し合いを繰り返し行うことで，自分の考えを理由と共に伝えることや，相手の意見に寄り添うことができるようになってきた。

○話し合った結果を実践する場を見通して単元を構成することで，相手意識をもって考えを伝え合う力がついてきた。

【国語・外国語部会】 表現・読解スキルの育成　　読む・聞く・書く・話す技能の育成

○単元の最初に学習計画を共有したり，読む→「書く」をゴールにして単元をデザインしたりすることで，必要感があり，学習活動に見通しを持たせることができた。

○ドリルを活用して読解スキルを学ばせ，要約する力や短い文章にまとめる力をつけることができた。

○タブレットＰＣ端末の録音機能，動画等を活用することで意欲を高めることができた。

○小学校での学習で語彙力（単語やフレーズ）が身に付き，中学校の指導につながっている。

【音楽・美術・技術家庭科・体育部会】 情報を活かした実践力を高める工夫

（音楽）○音作りができるアプリや，録音活動，鑑賞の補助などでタブレットＰＣ端末を活用したことで音からより多くの情報を得ることができた。

●鑑賞では，耳からだけでなく，視覚からも情報を読み取らせたい。

（美術）○タブレットＰＣ端末から必要な情報を取り入れながら，自分の思いを形に表現することができた。

●一人一人の読み取りが難しく，完成度に差が出た。

（技術・家庭科）

○タブレットＰＣ端末での動画視聴や検索，調べ学習で，理解を深めることができた。

●グラフから読み取る力が弱く，経験が足りない。

（体育）○動画を撮ることで，視覚的情報を得ることができ，課題が明確になった。

●多くの情報の中から自分に必要なものを選ぶ難しさがあった。

●球技でのＩＣＴ活用は難しい。練習方法や作戦を立てる際には有効。

【社会・数学・理科部会】 根拠を明らかにして説明する力の育成

（社会）○対話や交流などで何となく分かったつもりになっている児童・生徒が多い。記述するなど言語化することが，「根拠を明らかにして説明する力」の育成につながる。

○「根拠を明らかにして説明する力」の育成の土台として，「知識・技能の習得」が欠かせない。予習的課題に取り組ませたり，新聞記事を基に自分の考えを説明させたりするなど，２つの力の育成を基軸に授業実践を積み重ねていく。

（数学）○説明するための材料を与えることで，根拠ある理由を考えさせることができた。

●正解を求める授業だけでなく，考え方を求める授業作りをしていくことが必要である。

（理科）○授業展開の工夫とグループ活動の場を設けることで，説明力の育成に努めることができた。

●根拠を明らかにするための材料をつくる指導をしていきたい。

●実験方法とその結果を予想させ，根拠ある説明ができるようにしていきたい。

【特別支援教育部会】 個に応じた手立ての工夫

○興味関心のある課題を設定したことで，絵を描いたり文字を書いたりすることに抵抗がある児童も集中して活動できた。

○ＩＣＴを取り入れることで，家庭学習が不得意な生徒が学習に向かうことができた。

○写真や絵を見せて言葉の意味を説明すると，言葉を覚えて使うようになった。

【養護教諭部会】

小中連携における９年間の主体的な生活習慣づくり　～メディアコントロールを中心にして～

○今年度は陵東学区４校で同じ『生活リズムに関するアンケート』を実施することにより，学区としての傾向や他校と比較した実態を知ることができた。来年度も継続して実施していきたい。

○生活リズムアンケートをＩＣＴ機器を活用し行ったことで，集計等の事務的な負担が軽減された。また，保護者も回答しやすかったようだ。今後もＩＣＴを有効に活用していきたい。

●元気アップ週間期間中は，メディアコントロールに取り組むが，その期間以外は約束が守れなくなる児童がいる。また，メディアに関連する健康課題（視力低下・運動能力低下・生活習慣病等）についても，今後，保健指導等を考えていきたい。

【学校事務職員部会】 現在の学校における諸課題から，学習環境整備を考える

○情報交換を行い，予算要求の際の参考にしたり他校の事例を取り入れたりすることができた。

○４校で全体研究しているため，学校事務としての希望や計画を提案しやすい環境にある。

○各自の課題を共有し，改善策を話し合う場とすることで，お互いに教え合い学び合い，そして，新たな気づきへとつながり各自の力量アップを図ることができた。

●学習環境整備のために，事務職員自身がＩＣＴ環境整備の情報の理解に努めたい。

Ⅳ　おわりに

全体テーマ「自ら考えて行動する子どもの育成」から各部会のテーマを設定し，実践と交流を行ってきた。単元構成のデザインや工夫，相手意識を持った学習活動が有効であることなどたくさんの成果が見られた。また，一人一台タブレットＰＣ端末の効果的な活用も挙げられ，学習のツールとして日常化してきているようだ。

めざす子ども像を共有し実践の交流と情報交換を通して，さらに陵東学区小中学校の連携を深め，自ら考え行動する子どもを育成していきたい。

（陵東中学校区事務局長　長岡　政彦）

2　陵南中学校区部会

主体的に学び合う授業改善の推進

Ⅰ　はじめに

本会は，小中連携で授業改善を図るために授業研究会を中心とした悉皆研修とし，その積み重ねにより学力向上を図るいとう「ねらい」を明確に持ちながら進めてきた。今年度は，４校それぞれの研究テーマや視点を尊重し，授業を参観した上で参集型の「授業についての話し合い」を持つ機会を年間５回と計画した。学年部会は，小学校では年度当初に所属を決定し，中学校ではその都度希望を取って申し込むこととしている。

Ⅱ　研修の進め方

1　目的

（1）児童生徒の学力向上を目指し，陵南中学校区小中学校の研究・研修を通して，「わかる」「できる」授業づくりと主体的に学び合う姿をめざした授業改善を推進する。

（2）教職員が指導観を一にし，義務教育９年間で児童生徒の育成を図るための小中連携を推進する。

（3）地域の将来の担い手となる児童生徒の健全育成と自立を目指し，陵南中学校区の教職員，保護者が一体となって「地域とともにある学校づくり」を推進する。

2　基本方針

（1）研究協力校の研究テーマを柱に据え，また各校の研究を尊重しながら，陵南学区４校全教職員で授業研究を中心とした研修を行い「授業づくり，授業改善」に努める。

（2）陵南学区における課題を明らかにするとともに，教職員と保護者共通理解の下，課題解決に向けての取り組みを行う。

（3）常に組織のあり方や取り組みについて議論し，研究・研修の在り方，共通実践事項等について改善を図る。

3　令和４年度組織

【名　　称】寒河江市教育研究所・陵南学区小中教育懇談会
【会　　長】陵南中学校長（陵南中が研究公開の年は，寒河江中部小学校長が会長）
【副　会　長】寒河江中部小学校長（研究公開校校長）
【事　務　局】陵南中学校教頭（会長校教頭），寒河江中部小学校教頭，陵南中学校主幹
【運営委員会】４校の校長，教頭，主幹教諭
【各　部　会】

部　会　名	構成メンバー
小中合同部会	全職員が所属

	学年部会	各校毎に，年度当初に所属部会を決定（６部会） 中学校職員は，その都度所属する部会を決める。
	特別支援学級部会	特別支援学級担任　　部会担当：那須校長（中部小）
	養護教諭部会	養護教諭，栄養職員（陵南学区独自の会議の際，それ以外は市全体で） 養護教諭会担当：小林校長（柴橋小）栄養教諭会担当：茂木校長（南部小）
	学校事務職員部会	事務職員　部会担当：山口校長（陵南中）
特別部会		構成メンバーだけが集まる年２回の部会
	課題研究部会	各校より代表者１名
	学力対策委員会	各校の研究主任等１名
領域別部会		各校の代表者により構成する部会（所属は，下記の通り）
	教科等連携部会	令和４年度はなし
	学習指導部会	学習指導部長，研究主任　☆担当　南部小教頭
	生徒指導部会	生徒指導主任，生徒指導主事　☆担当　中部小教頭
	教務主任部会	教務主任　☆担当　柴橋小教頭
	学校栄養職員部会	中部小と柴橋小と南部小の栄養職員
	保護者部会	ＰＴＡ３役（学校によっては４役）
	＊臨時部会	＊必要に応じて（中学校１年生の情報交換　等）

4　今年度のテーマ（公開する学校の研究テーマを柱に）

【寒河江中部小学校の研究主題】

たくましく学ぶ子どもの育成

～主体的に学び，共に学び合い，その学びを実感できる授業づくり～

（１）主体的に学ぶ工夫

・子どもたちが主体的に学ぶための工夫があり，それが効果的であったか。

（２）かかわりを通して学び合う工夫

・授業の中で，子どもたちのかかわりは，効果的であったか。

（３）自分の学びを実感する工夫

・授業が子どもたちにとって，実感を伴うものであったか。

今年度は，授業づくり，授業改善を目的に，上記３視点で授業を公開し，参観と事後の話し合いにおいて評価・検証する研修を中心に教育懇談会（全員集会）を運営する。部会によっては視点を絞ることも可とし，授業を公開する学校によってはその学校のテーマや視点で評価・検証することも可とする。

Ⅲ　研修の概要

１　ここまでの研修内容

日時と会場	会　議	会議の大まかな内容
４／２２(金) １５：３０～ 陵南中学校	第１回 運営委員会	・今年度の組織改編と，年間の計画について検討 ・第１回全員集会に向けた準備 【コロナ感染予防に努めながら，本年度はできるだけ計画通り実施することの確認をした。】
５／１０(火) １４：００～ １６：３０ 陵南中学校	第１回 教育懇談会 （全員集会） （領域別部会） （小中情報交換会）	○　授業参観（５校時）　１４：００～１４：５０ ・１年生と特別支援学級の計７クラスで授業参観 ○　全体会　１５：００～１５：２５ 【ｚｏｏｍで各教室に配信】 ・教育委員会より市教育研究所の趣旨等の説明 ・今年度の教育懇談会について ○　各部会（小中合同部会）　１５：３５～１６：３０ ・事後の話し合い（７ヶ所で） 参観した授業ごとに部会を設け，生徒の発達と身につけさせたい資質能力を捉えた「授業づくり」について話し合うことができた。 ・養護教諭部会開催（さがえっこ元気アッププロジェクト） ・事務職員部会開催（事務連携共同実施について） ○　領域別部会　１６：３５～１６：５５ ・生徒指導部会開催（各校の生徒指導上の課題） ・学習指導部会開催（学校研究の情報交換） ・教務主任部会開催（小中交流について） ・中学１年生の情報交換会（担任同士の情報交換）
６／２４(金) １４：００～ １６：４５ 寒河江中部小学校	第２回 教育懇談会 （全員集会）	○　授業参観（５校時）　１４：００～１４：４５ ・特別支援学級を含め，７つの授業公開及び部会を設定 ○　全体会　１４：５５～１５：２０【体育館で実施】 ・研究の概要説明 ○　各部会（小中合同部会）　１５：３０～１６：３０ ・寒河江中部小学校の研究主題に迫るような話し合いとなった。「主体的な学びと協働的な学びを創造しているか」，「子どもたちは学びを実感しているか」について，どの部会でも共通話題とした。 ○　養護教諭部会・事務職員部会の開催
１０／７(金) １４：００～ １６：４０ 柴橋小学校	第３回 教育懇談会 （全員集会）	○　授業参観（５校時）　１４：００～１４：４５ ・７つの授業公開及び部会を設定 ○　各部会（小中合同部会）　１５：００～１６：００ ・授業づくり，授業改善に迫る話し合いとなった。学力を伸ばすには，児童に対する肯定的な言葉がけを意識し，ほめ合える授業を目指している教員が多いことが分かった。 ○　養護教諭部会・事務職員部会・栄養教諭部会の開催

日時と会場	会　議	会議の大まかな内容
１１／１８(金) １４：００～ １６：１５ 寒河江中部 小学校	第４回 教育懇談会 （全員集会） 市教委委嘱公開研究発表会	○　授業参観　１４：００～１４：４５ ・７つの授業公開及び部会を設定 研究主題：たくましく学ぶ子どもの育成 ～主体的に学び，共に学び合い，その学びを実感できる授業づくり～ ○　全体会【ｚｏｏｍで各教室に配信】 ・研究の足跡と話し合いの視点を説明 ○　各部会（小中合同部会）　１５：３０～１６：３０ ・教材研究が教科の本質に迫っているか議論するとともに，子どもの姿を通して「自分で」「みんなで」「ふり返って」の授業過程となっているか分析し，意見交換ができた。 ○　養護教諭部会・栄養教諭部会・事務職員部会の開催

２　これからの研修計画

日時と会場	会　議	会議の大まかな内容
１／２４(火) １４：００～ １６：４０ 南部小学校	第５回 教育懇談会 （全員集会） （領域別部会）	○　授業参観（５校時）　１４：００～１４：４５ ※学年部会を意識した授業研究会を計画する。 ○　各部会（小中合同部会）　１５：００～１６：４０ ○　領域別部会等：各部会と同時開催 ・生徒指導部会（各学校の課題解決への取り組み） ・学習指導部会（学校研究の成果と課題） ・教務主任部会（小中交流の成果，次年度の日程） ○　特別支援学級部会 ※新年度，陵南中学校の学級編制
２／８(水) １５：３０～ 陵南中学校	第２回 運営委員会	・今年度の総括 ・次年度のあり方について検討

３　小中合同部会の成果と課題について

今年度の「授業についての話し合い」（授業づくり，授業改善）に取り組んだ成果

① 公開研を通して多くの先生方よりご意見をいただき，「学年カリキュラム・マネジメント表」の評価・改善を図り，「たくましい学び」や授業改善につなぐことができた。（寒河江中部小）

② 小と中の教員が共通の視点で意見を交流したことにより，「９年間のどの段階で，どんな力を，どんな方法でつけるのか」という視点をもって，授業改善に取り組むことができた。（南部小）

③ １～６年全学級で授業を公開し，事後検討会では，たくさんの意見や感想を出し合い授業改善に生かすことができた。また，陵南中学校区内での児童理解を進めることもできた。（柴橋小）

④ 学習課題を設定するには，生徒の発達段階を把握し，生徒理解が大切である。この機会に小学校の先生方と生徒理解について話し合えたことで授業づくりの一助となった。(陵南中)

Ⅳ　おわりに

令和２年度と３年度は，全員集会の中止や内容の縮小などで本教育懇談会の目的である教職員の研究・研修の場が十分ではなかった。さらには，個々の教職員が他校で行われる授業研究会の参加を自粛せざるを得ない状況だったことから，今年度は寒河江中部小学校の公開研究会を中心に陵南学区の教職員が授業改善を目指して研修する場を確保できたことが何よりだった。

それぞれの学校で行われる全員集会，各部会の在り方などについては，部会の意向を汲みながら授業研究を柱に内容を検討していく。　（陵南中学校区事務局長　石山　勝巳）

3　陵西中学校区部会

小中が連携して児童・生徒の「表現力」を高める（2年次）

Ⅰ　はじめに

昨年度は，小中が連携して育成を目指す資質・能力を「表現力」に特化し，各部会とも，「表現力」を高める取り組みを行った。表現する必要性のある課題設定や場を工夫したり，主体的な活動を仕組んだりすることで，自分の思いや考えを意欲的に表現する姿を見ることができた。

今年度は，昨年度の実践を基に，「表現力～伝えるから伝わるへ～」を高める研修を行うこととした。サブテーマを設定することで，目指す児童生徒の姿をより焦点化することとした。相手・目的・状況に応じて表現するなど，伝える相手のことを考え，相手に分かりやすく伝わるような，双方向的な表現力をイメージし，実践に取り組んでいった。

Ⅱ　研修の進め方

1　目的

（1）個別最適化により，児童生徒一人一人が「わかる」「できる」授業づくりを目指し，主体的に学び合う姿となるための指導方法の工夫と改善を推進する。

（2）将来を見据えた義務教育９年間で必要とされる資質・能力を育成するために，小中連携をより一層推進する。

（3）児童生徒も地域も幸せになるために，陵西中学校区の教職員，保護者や地域が一つになって目指す姿を共有し，「地域とともにある学校づくり」を推進する。

2　基本方針

（1）義務教育９年間で育む力と姿を明確にし，それぞれの部会が有機的に機能するような研修をする。

（2）陵西中学校区の児童生徒の実態と課題を明確にするとともに，小中の共通理解のもと，それぞれの発育段階に応じた授業づくりや活動の研究を行う。

（3）各校の研究を尊重しながら，児童生徒並びに教職員が楽しく充実した研究になるよう，あり方や取り組みについて議論しながら実践する。

3　今年度の組織について

委 員 長…　陵西中学校校長　　副委員長…　高松小学校校長（研究発表校）
事務局長…　醍醐小学校教頭（次年度発表校）　事務局員…　白岩小学校教頭
研究推進委員…　各学校の教務主任

4　研修会のもち方

研究推進委員会（年４回），全員集会（年１回），研修部会（年２回），授業研究会（年１回）を行う。研修部会は，内容や場所に応じて開始時刻や研修時間を検討する。

Ⅲ　研修の概要

1　全員集会

（1）日　時　　令和４年５月１０日（火）　１４：３０～１６：４０
（2）会　場　　陵西中学校
（3）内　容　　①授業参観…全所員が陵西中の授業を参観
②全体会…布川真二指導主事から，陵西中学校区全体で目指す表現力の向上について，指導していただいた。「場面に応じた」「相手を意識した」「目的

に応じた」表現力の育成に係る実践の積み上げや，評価と改善の繰り返しなど，共通認識と見通しをもつことができた。

③各部会…実践する表現力について，取り組みの吟味と共有

２　第１回研修部会

（１）日　時　　令和４年７月７日（木）　１３：５０～１６：４０
（２）会　場　　白岩小学校
（３）内　容　　①授業参観…全所員が白岩小の授業を参観　　②各部会　…下記参照

＜　第１回研修部会　各部会の内容　＞

【　授業部会　】

「表現力の育成～伝えるから伝わるへ～」のテーマのもと，日頃感じている表現力に関わる実態や課題・目指す児童生徒の姿・手立てについて，３グループに分かれて話し合った。下記のことを大切にしながら，実践していく。

・教科特有の言語表現の意識　　・話し合う必要性をもたせる課題設定
・相手意識をもてるような課題設定　　・話し合いの形態の工夫（ペア・グループ・全体）
・一人一人を大切にした授業づくり　　・ＩＣＴや思考ツールの活用　　等

【　教育活動部会　】

学校や学級の実態や目指す児童生徒の姿，「表現力」を高めるための手立てについて話し合った。その後，各自指導計画書を作成し，下記のようなことを共有した。

（実践する活動の種類や内容）
・児童会，学年自治会，生徒会活動（あいさつ運動・活動の提案や説明　等）
・学級活動（朝の会でのスピーチ・帰りの会での振り返り・発表　等）
・行事（めあてや実現するための手立ての伝え合い　等）
・部活動（練習内容の説明　等）

（実践する上で大切にしていくこと）
・「伝わる」ができたか確認する手立て
・成功体験を実感させるための，教師や生徒同士の関わり

【　特別支援学級部会　】

楯岡特別支援学校寒河江校，森谷久美教頭から，「障がいのある子どもの表現力を育む指導・支援の工夫」について講話をいただいた。また，下記のような点を重視し，児童生徒のいいところを，活動の手立てやヒントにすべきであるということを助言いただいた。

①５Ｗ１Ｈで指導計画を立てる。（実態から指導目標や指導内容を考える）
②指導や支援について考える。（指導時間，指導の場，指導者）
（教材，学習方法，支援方法⇒「心の温度計」や絵カード，セカンドステップ等

【　養護教諭部会　】

「表現力」を高めるために行っている各校での取り組みを紹介し合い，それを受けて，けがや病気で保健室に来た時の症状の伝え方について，陵西中学校区で共通に取り組んでいくこととした。発達段階に応じて，表現力の高まりを検証・評価していく。

【　学校事務職員部会　】

学校事務の連携・共同実施として，「扶養手当・寒冷地手当」について研修を行った。
・酒田六中事務部報より　　・教材のＷＥＢ研修より

3　高松小学校公開研究会
（1）日　時　　令和４年１１月１０日（金）　１３：３０～１６：４０
（2）会　場　　高松小学校
（3）内　容　　①公開授業（４学級）　　②分科会　　③全体会

4　第２回研修部会
（1）日　時　　令和４年１１月２９日（火）　１３：５０～１６：４０
（2）会　場　　醍醐小学校
（3）内　容　　①授業参観…全所員が醍醐小の授業を参観　　②各部会　…下記参照

＜　第２回研修部会　各部会の内容　＞

【　授業部会　】
（表現力を高めるために取り組んだ実践の成果）
・「すごいと思った」など，抽象的な表現をした際，「もう少し詳しく」「なぜそう思ったの」と教師が問い返し，より具体的な言葉を引き出すようにした。また，聞いた児童に，どのような内容だったのか話させる活動を行ったことで，表現が伝わっているかどうか，確認することができた。
・相手の反応を確かめながら説明したり，意見をグループで交流したりしたことで，子ども同士で学び合い，互いに理解しているかを確認しながら学習を進めることができた。
・生活の中で児童の言葉を教師が価値づけしたり，巻末資料の「言葉の宝箱」を活用したりしたことで，語彙を増やし，コミュニケーションの幅を広げることができた。
・思考ツールやオクリンクを活用し，視覚的に情報を共有したことで，考えを伝え合うことができた。
（今後の課題）
・意見を聞いた後，考えの広がりや深まりに結び付くよう，聞き直しをしてより詳しく知ろうとしたり，反対意見を出して多様な考えを出し合おうとしたりできるようにしたい。
・双方向のコミュニケーションができるよう，聞き手の指導にも力を入れていきたい。また，身に付けた表現力が他の場面で生かせるよう，実践を積み重ねていきたい。

【　教育活動部会　】
（表現力を高めるために取り組んだ実践の成果）
・「聞く・話すレベル表」を活用し，継続して朝の会等でスピーチを行った。必要感をもちながら，そして自信をもち，豊かに話をすることができるようになった。
・主体的なあいさつ運動を実施した。自分たちであいさつについて話し合い，放送で全校生に伝える際には，分かりやすく話したり呼びかけたりすることができた。相手を意識させたり達成感を得られたりすることが，表現力の向上につながった。
・学年集会で，リーダーが話す場を設定した。原稿を見ずに伝えることができるようになった。表現力の向上には，認め合う場をもつことが大切だと学んだ。ほめられたり，反応が返ってきたりすることで，さらに「伝えたい」という思いをもたせることができた。
・異学年の集団で交流することで，上級生は分かってもらえるように工夫した。その結果として伝える力が付き，伝わった喜びを実感できることが多かったと感じた。
（今後の課題）
・表現力の育成のため，伝えたいという思いをもつことと，「話す・聞く・書く」のスキルを身に付けることが大切だと感じた。そのため，教育活動を計画的に実施していきたい。

【　特別支援学級部会　】

（表現力を高めるために取り組んだ実践の成果）

・子どもが今感じていると思われる気持ちを，「困っているんだね。」などと言語化し，対処の仕方を指導したことで，援助希求の言葉が出てくるようになった。

・「気持ちを表す言葉」を活用したことにより，自分の気持ちを客観的に見ることができるようになって，少しずつ言葉で表現できるようになってきた。

・ソーシャルスキルのワークシートに取り組んだり，「みんなのためのルールブック」等を見たりすることで，相手の気持ちを考えて言葉をかけたり，ルールを守って人と接したりする場面が増えた。

・教師や友達との関わりが大切なので，活動の中で様々な経験を踏まえて，繰り返しやっていくことが大切である。

（今後の課題）

・聞くスキルをどこで伸ばしていくか，計画的に実施していきたい。

・生活経験が少ないので，国語の学習を中心に語彙を増やしていく必要がある。

・感情のコントロールがよりスムーズになるよう，感情の可視化を今後も検討していく。

【　養護教諭部会　】

（表現力を高めるために取り組んだ実践の成果）

・症状の伝え方等について，発達段階に応じて項目を設定した。１・２年生は「いつ」「どこで」「何をしているときに」「どこが」，３・４年生は「どうやって」「どうなった」，５・６年生は「どうしたいか（どう処置してほしいか）」，中学生はカードや掲示等を見ずに言えるようになってきた。

・「フェイススケール」を適宜活用したことで，なぜそのような気持ちなのか，理由を付けて言えるようになった。児童生徒の目に見えない情報収集にも，効果があった。

・クールダウンが必要な児童と対話しながら，その子の実態に適した「気持ちの温度計」を作成した。数値化された怒りの気持ちに対する自身の行動と，対処の仕方を自覚できた。クールダウンしたい時は，自ら保健室に来室し，気持ちを言うことができるようになった。

【　学校事務職員部会　】

（令和４年度共同実施について）

・月毎に事務スケジュールの確認を行ったり，給与等について各校の事例を基に，書類を準備したり確認し合ったりできた。今後も継続していきたい。

・他地区の共同実施グループとの研修を，今年度行うことができた。お互いの悩みを共有でき，今後の課題も見えてきた。また，年度途中から，実務も共同で行った。とても有効だった。新たな試みであっても，有益なものは取り入れていきたい。

Ⅳ　おわりに

今年度は，各校の授業を１回ずつ，所員全員で参観する機会を設けた。各校での児童生徒の学びに向かう様子から，どのような資質・能力を付けていくべきなのか，自分事として学ぶことができた。また，研修部会では，目指す児童生徒の姿をより焦点化したことで，相手意識をもちながら，目的や状況に応じて分かりやすく伝えようとする姿を見ることができた。相手に伝わっているか確認しながら表現する児童生徒が増えてきているという成果も確認された。

教育活動全体で，更なる表現力の向上が図られるよう，小中の連携を大切にし，今後とも実践を積み重ねていきたい。

（陵西中学校区事務局長　白田　幸子）

4　学校栄養職員部会

既習事項を活かした給食指導を目指して

～　朝食・偏食・栄養バランスの取れた食事を通して学力向上を目指す　～

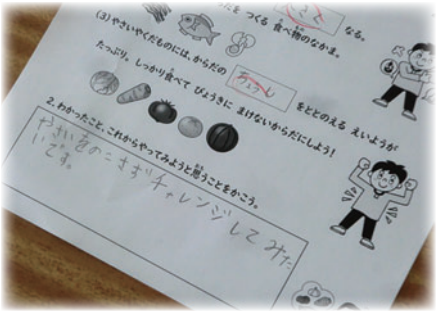
Ⅰ　はじめに

本部会では，昨年度中に市内小中学校へ周知した「９ヵ年を通した食に関する指導計画」に沿って，指導を実践していくこととなった。実践を通して，指導内容がよりよいものになるよう，情報を共有しながら修正・改善を重ねていくこととした。

Ⅱ　研修の進め方

1　「９ヵ年を通した食に関する指導計画」に沿って，計画的に指導を実践していく。
2　所属校だけでなく，市内各小中学校での実施計画を把握し，派遣依頼をいただきながら，授業実践を行う。
3　指導内容がよりよいものとなるよう，学級担任等にアドバイスをもらう。また，本部会開催時に，実践報告の場を設けながら，情報を共有していく。

Ⅲ　研修の概要



1　第１回研修部会

（1）日　時　５月１０日（火）１５：２０～
（2）会　場　寒河江市立陵南中学校
（3）内　容　今年度のテーマ・取り組み内容の検討

2　第２回研修部会

（1）日　時　６月２４日（金）１４：３０～
（2）会　場　寒河江市立寒河江中部小学校
（3）内　容　指導教材の研究

3　第３回研修部会

（1）日　時　１０月７日（金）１４：００～
（2）会　場　寒河江市立柴橋小学校
（3）内　容　授業実践　経過報告

Ⅳ　おわりに

たくさんの方々のご理解とご協力をいただきながら，計画的に食に関する指導を進めることができた。取り組み初年度ということもあり，中学校ではなかなか時間の確保が難しい課題もみえたが，これからも学校との連携を密にしながら，未来ある子どもたちの生きる力を食の面から支えられるよう，研修を深めていきたい。

（大久保　郁美）

5　学力対策委員会

一人一人に確かな力を
～個別最適な学びと，協働的な学びの視点から～

Ⅰ　はじめに

令和３年答申では，目指すべき新しい時代の学校教育の姿として「全ての子どもたちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現」が提言された。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け，授業の中で個別最適な学びの成果を協働的な学びに生かし，さらにその成果を個別最適な学びに還元するなど，個別最適な学びと，協働的な学びの一体的な充実が求められている。

学力対策委員会議では，全国学力学習状況調査等から明らかになった成果と課題を全体で共有し，今後のＩＣＴを活用した個別最適な学びに焦点を当てて話し合いをした。

Ⅱ　第１回学力対策委員会議から

１　全国学調等の各種学力調査の結果と改善策について

（１）　小学校では，市全体として読解力に課題がある。

①　目的や条件を提示した上で，筋道立てて資料を読み取る活動を設定する。

②　思考ツール等を活用し，情報を整理したり考えを明確にしたりする活動を設定する。

（２）　小学校では，市全体として選択式・記述式の正答率に課題がある。

①　選択式の問題で，正答ではない理由を言語化し，学級全体で共有する活動を設定する。

②　質問したり話し合ったりして分かったことを踏まえて，自分の考えを記述する活動を設定する。

２　ＩＣＴを活用した授業改善について

（１）　子どもに委ねる割合を増やす。

①　教科書やタブレットＰＣ端末等に載っている情報からの知識等の学びとりを認め，その姿勢を育てていく。

②　集団思考に移るタイミングや進め方は，学習の主体である子どもに任せる。

③　練習問題を子ども自身に選択させ，自己調整力や粘り強く取り組む力を育成する。

（２）　日常的にＩＣＴを活用する。

①　紙でもデジタルでもよい場面ではデジタルを選択し，子どもたちに多くの学び方を経験させ，タブレットＰＣ端末を活用するよさを繰り返し実感させる。

②　子どもたちが使いたい時に使えるタブレットＰＣ端末になるよう，いつでも取り出せる環境を作る。

③　ミライシードの「カルテ」を活用し，子どもたちの学習履歴を蓄積する。

④　校務に office ３６５（クラウド）を活用し，教師自身の情報活用能力を高める。
→ペーパーレス職員会議，Forms によるアンケート，協働編集機能による会議　等

Ⅲ　おわりに

個別最適な学びと，協働的な学びの一体的な充実を図るために，まずは私たち教師自身の意識を変えることが大切だと考える。「教師が子どもへ教える」から「子どもが学びとる」授業づくりに向けて日々研究と修養を重ね，本市の子どもたちのさらなる学力向上に努めていきたい。

（小関　直幸）